



一人ひとりが輝くことができる職場に

医療法人社団まほし会 真星病院

今回は平成26年度の「こうべ男女いきいき事業所」に選ばれた医療法人社団まほし会真星病院を訪ねました。子育て世代の職員のため、365日24時間対応の院内保育を実施。職員の声に耳を傾け、一人ひとりがいきいきと働ける環境づくりに努めています。

理事長・院長
大石麻利子さん

院長補佐・メディカルサポートセンター長
井上やよいさん



理事長・院長の大石麻利子さん(左)と井上やよいさん

家庭との両立を多彩に支援

日が暮れたころ、真星病院の敷地内にある保育所に仕事を終えた職員が子どもを迎えにやってきました。現在、院内保育所を利用している職員は33人。勤務シフトに合わせて365日24時間対応しているので、夜勤の際も預けられるほか、急な残業が入った場合もそのまま延長できます。

看護部眼科リーダーの川上真吾さんは4歳の長女を預けています。「さまざまな年齢の子どもと交流ができますし、イモ掘りなど季節の行事もあります。あと、温かい給食が出るのはとてもありがたいです」。

さらに、近隣の幼稚園に移った子どもについては、降園時に直接院内保育所に送ってもらうようにし、職員(保護者)の終業時間まで預かっています。「幼稚園教育を受けさせたけれど、終わる時間が早いので難しい」という職員の声に応えたかたちです。



院内保育所には0歳から5歳までの子どもが通います。

同病院の仕事と家庭の両立支援は院内保育所に限りません。育児休業中の職員とコミュニケーションを図るため、月に一度、看護部長が面談を実施。子育ての相談に乗ったり、悩みを聞いたりしています。そして、復帰前には自信を持って仕事に臨めるように研修を行っています。

「私自身、3人の子どもを持つ母です。仕事と家庭の両立が大変なことはよく分かります。だからこそ、諦めずに能力を発揮し続けてほしいのです」と大石麻利子院長。皆でバックアップする雰囲気は浸透しており、育児休業の取得率はほぼ100%。平成25年度には介護休業を男性職員が取得しました。

皆が輝く風通しの良い職場に

大石院長は、毎年、パート職も含めた全職員と個人面談し、「何か困っていることはないか」「職場の人間関係はうまくいっているか」「家庭との両立は図れているか」など、一人ひとりの声に耳を傾けます。また、院内のネットワークシステムを利用して情報共有の場「グループウェア」を設け、誰もが自由に意見を出せるようにしています。ここでの意見がきっかけとなり、時短制度が導入されることになりました。

「職員の意見が経営陣に届くことはとても大事。その声はできるだけ尊重したいと思っています」。素晴らしい提案については表彰しており、直近では介護士の女性が出した「地域での食育指導」が選ばれました。

職場の風通しの良さは職員のやる気を向上させ、さまざまな相乗効果を生んでいます。有志が行う「フィッシュ活動」もその一つ。これは、アメリカのさびれていた



フィッシュ活動には職員の家族も参加

魚市場が「楽しく仕事をしよう」と職場の改善活動に取り組んだ結果、復活したことからその名が付いたもの。メンバーは、職員が楽しく仕事ができ、患者さんも喜ぶ方策を考えて実施しています。例えば、「あの日、あの時の『ありがとう』を書いてみませんか?」というメッセージを院内に貼る試み。患者さんと職員の「ありがとう」が壁いっぱいには紹介されています。

「職員が自ら活性化のために動いているのはうれしいし、見ていて頼もしい」と大石院長。その気持ちに応えるためにも、今後も働く人が輝ける職場づくりに努めていきます。